

第73回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）

日 時	平成29年7月5日（水）14時00分～16時10分
開催場所	関内中央ビル10階 大会議室
出席委員	工藤委員長、蟻川委員、有賀委員、大久保委員、岡本委員
欠席委員	なし
法 人	二見理事長、重田副学長、齋藤副学長、岡田副学長、宇都木事務局長 ほか
事務局	寺岡大学担当理事、森田大学調整課長、坂田大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 1名）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第72回横浜市公立大学法人評価委員会会議録（案）について</li> <li>2 公立大学法人横浜市立大学平成28年度決算及び財務諸表等について</li> <li>3 平成28年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画及び第2期中期目標期間における業務の実績報告</li> <li>4 中期目標変更にかかる意見聴取（データサイエンス学部設置）</li> <li>5 その他</li> </ol>
決定事項	
議 事	<p>主要な発言は、以下のとおり。（○：委員発言、△：法人・事務局発言）</p> <p>※議題1について          ・特に異論無く承認</p> <p>※議題2について</p> <p>○28年度に高額寄附の実績が報告書に記載されていたが、決算書のどこに掲載されているのか。利益として計上していないのか。</p> <p>△資料5、2ページの流動負債、寄付金債務の一部となっている。負担を伴うものであるため利益としていない。</p> <p>※議題3について</p> <p>○国際化の取組の進展については評価したい。留学生の受け入れや市大生の海外派遣の目標数値の達成状況はどうなっているか。</p> <p>△受入数、派遣数ともに目標未達成であった。3期はさらに高い目標を設定し、取り組みを強化していきたい。</p> <p>△留学生の受け入れ、派遣の各年度の実績はデータ集に記載している。</p> <p>○実績報告書に総合診療医学教室を設置したと記載されているが、教室を設置しただけでは高齢社会に対応した実績とは言えない。地域の医療機関との連携など具体的な取組を行っていると思うので、その成果を記載した方が良いと思う。</p> <p>△県内の医療機関との連携は実施しているので記載を検討したい。</p> <p>○附属病院の入院患者の減少の理由は何か。</p> <p>△救急用の手術室を常時1室確保していることの影響もあり、手術室が需要に追い付いておらず手術待ちの患者が多いこと、入退院の効率的な運用が不十分で空きベッドが発生していることが主な要因である。手術室を増室し、入退院の流れをシステムティックに効率化を図るよう取り組んでいく。</p>

○救急患者の手術が重なる場合もあるので救急対応については運用上の工夫の余地があると思う。入退院の効率化にあたっては手術前後の患者を効率的に診察していくことが重要であり、効率的に看護師を運用していくことが必要である。

△工夫して取り組んでいきたい。

○東大や九大など法人化以前から病院の増収対策で実績を上げている例は多い。患者経験者のボランティア組織化や待ち時間の負担軽減など患者に愛される病院づくりをしつつ実績も上げていると聞く。

○増収策として効果的なのは保険外負担が確保できる人間ドックサービスや差額ベッドである。市大の病院は信用度が高いのでいずれもニーズは高いと思われる。公立病院としての役割の整理が必要であるが思い切った取り組みも必要な時期ではないか。急性期治療だけでは経営は困難な構造というのが大病院の常識となっており、人間ドックなどの経営の多角化に取り組んでいる。

△附属病院の建物は機能的に古くなっており個室の増設などに対応できていない。高額な差額ベッドの設定については公立病院としては制約があると思う。

○今後の評価にあたり第2期中期目標期間の各種指標の達成状況について一覧で確認できる資料をいただきたい。

△調整して提供したい。

○決算の赤字は問題であるが、病院収支の黒字化を目指すため、大学でコントロールが可能な要素はどこにあると考えているのか。

△病院は増収減益の構造となっているため、両病院での医療機器やシステム、薬剤などの共同購入による価格交渉力を高め費用抑制を図りたい。収益の面では地域の医療資源に適切に患者を引き継いでいくことが重要だと考えている。

○たとえば退職給付債務の償却期間が5年となっており単年度費用が大きくなりすぎると思うが、見直す余地はないのか。

△国公立大学の処理方法は5年償却で横並びに整理された経緯がある。見直す余地があるかどうか、改めて経緯等を確認してみたい。

○実績報告書については総論及び自己評価部分のページのみとして個別の実績は参考資料なり添付資料とすることはできないか。これだけの量の報告書は作るのも読むのも負担が大きいので可能であれば省力化できればと思う。

第2期期間中の自己評価における不祥事の取り扱い（コンプライアンス）はこれでよいのか。

学長表彰導入について教員のみが対象であるが職員、学生も対象とすべきではないのか。

SD制度について二つの意味で略語用いられているので整理した方がよくないか。

中期実績でも年度実績でも病院の赤字額6.6億円とあり、全体収支に言及しない中で強調されすぎていないか。

プロパー職員の比率が高まったことを実績としているが職員構成の多様性の面でいかなものか。あまりプロパー職員の比率が高くなると、いずれ人事の停滞・硬直化など土気高揚の面などで問題が生じないか。

○プロパーの比率が高い方が業務の習熟や帰属意識の面でメリットはある。多様性を確保するために他大学出身者を一定程度確保している。やはりバランスが重要だと思う。

	<p>○病院の抜本的な収益改善策の一つとしての人間ドックや差額ベッドについては抵抗もあるが、利益を上げることが補助金減につながり結果として市民のためになることを丁寧に説明し理解を得る努力が必要だと思う。医師以外の人件費が増加しているがこの要因は何か。</p> <p>△臨床中核病院の要件やレベルの高い診療報酬を得るための各種基準をクリアするための人員増が影響している。</p> <p>○寄付金の増加努力について評価したい。だが寄付金収入は収支に反映されないため決算を見てもわからない。何か違う形で表示する工夫ができないものか。</p> <p>○収益改善策について評価委員会からの意見は大変心強く思っている。公立病院の役割の議論に役立てていきたい。 学長表彰の件について職員や学生に対する表彰制度は既に設けている。教員については従来の教員評価に基づく給与傾斜配分の原資を表彰に活用することとしたものである。</p> <p>○病院の収益改善の視点ではジェネリック医薬品比率を一定程度高める努力や機器の共同購入の範囲を両病院からさらに市立病院や地域中核病院に拡大すること、ディスプレイ製品の滅菌リユースのルール化などは検討の価値があると思う。</p> <p>○第2期期間中の全体評価については地域貢献や国際化といった重点的な取り組みがどのように進められたかについて総括的に評価することが必要ではないか。法人の実績報告書においてもその点をアピールしてほしい。</p> <p>△改めて法人の総括的なコメントを追加したい。</p> <p>△中期全体の実績評価については御指摘を踏まえて解りやすい評価書を作成していきたい。</p> <p>※議題4について ・中期目標の変更について、資料14の案のとおり了承。</p> <p>※その他 ・事務局より次回のスケジュール等、連絡事項の説明。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配付資料] 資料1 第72回 横浜市公立大学法人評価委員会会議録(案) 資料2 平成28年度決算について 資料3 平成28年度決算概要報告 資料4 平成28年度決算 前期比較貸借対照表 資料5 平成28事業年度 財務諸表 資料6 平成28事業年度 決算報告書 資料7 平成28事業年度 事業報告書 資料8 独立監査人の監査報告書 資料9 平成28年度 決算監査報告書 資料10 第3期中期計画期間における積立金の活用について 資料11 平成28年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績報告書 資料12 公立大学法人横浜市立大学第2期中期目標期間における業務の実績報告書 資料13 評価記入用紙 資料14 中期目標変更案</p> <p>[参 考] 公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>